

新たな情報通信技術戦略の策定に関するパブリックコメント募集

記入項目

1 個人

2

3. 連絡先

意見

地域の絆の再生

健康医療について

個人の検査情報等医療にかかわる情報を個人あるいは関係医療機関において共有することは重要であり効率化していくことは賛成であるが、これらのデータを官民においてデータベース化し効率化のみを目指して利用していくことは危険なことであり、経済的論理のもとで社会保障が行われることに繋がる。このことは本来、国民が望んでいる社会保障制度とは大きくかけ離れたものとなる。即ち、医療は個々の患者により多様性と不確実性の高い分野であり、きわめて個別性の高いものがある。情報のデータベースされたものを各方面から種々の方法で活用されることは医療の平準化や画一的で統一的なものにされていくことに繋がり、医療の裁量権を狭めることになり、結果として個々に対する良質な医療の提供が困難となる。

また、これらの情報を匿名化したとしても情報の真の所有者は個人にあり、そのため個人情報コントロール権についての問題にも係ると考える。本人の知らないところで本人の意向に反し利用されていくことについては十分な配慮がなされるべきではないか。

さらに、これらの個人情報収集をされたものについての漏洩も危惧される。過去においてもこのことはしばしば発生しているのが現状である。

従って、個人の健康医療情報については個人あるいは医療関係のみにおいて必要最小限共有されるべきものでなければならず、請求に係るレセプト情報についても審査機関、保険者のみにとどめるべきと考え、やみくもに拡大すべきではないと考える。